



長尾 義和

一、総合計画について 二、小・中学校における問題行動について

総合計画について

問 総合計画は基本構想、基本計画、実施計画の三段階にわけられるが、現在の総合計画では基本構想と基本計画の二段階になっている。新総合計画では、どのような組み合わせ方を考えているのか。

答 現在、確定はしていないが、基本構想は地方自治法の定めがあり必須である。基本構想のみを策定し、これを支えるものとして現行の自立経営プラン、骨太の方針、行政評価システムは有効に働いているので、そういう組み立て方について、今、議論をしている。

問 総合計画の計画期間は、一般的に10年が多いが、社会情勢が目まぐるしく変化する今日では、5年も経てば状況が変わってくる。どのように計画期間を設定するのか。

答 5年、10年の考え方はあるが、基本構想、将来像であるので、10年が主流になると思う。いずれ総合計画審議会で議論

をしていたきたい。

問 町長から総合計画審議会に諮問されるが、諮問の仕方は、ある程度、内容を示されるのか、あるいは白紙の状態での諮問されるのか。

答 審議会でも議論したが、すべて町で決まってしまうと、審議会でも議論する意味がないので、一定審議会に任せる分は必要だと思っている。ただ、全く何もなしで任せることにはならないと考えている。

問 将来目標の計画人口を総合計画で定めるが、他の計画との整合性をどう考えているか。

答 総合計画の計画人口は、将来、目指すべき人口である。各種施策を進めるうえで人口設定はそれぞれあるが、総合計画と同じにしなければいけないかという議論はある。一致する方がよいが、それによって生じるデメリットが考えられる場合は、総合計画の計画人口にこだわらざるつもりはない。

小・中学校における問題行動について

問 学校を取り巻く社会環境は大きく変化し、児童生徒の問題行動についても深刻な状況が続いている。本町における問題行動の実態と対策について尋ねる。

答 本町における暴力行為、いじめ等については、全国に比べると発生件数も少なく、ここ数年は横ばい状態である。また、不登校は、平成15年をピークに減少傾向にあったが、ここ2、3年は横ばいの状態にある。

今後は、より一層、児童生徒の状況把握に努め、必要に応じて家庭訪問等を実施し、家庭とも連携しながら、きめ細やかな支援に努めていきたい。

また、関係諸機関とも連携し、問題行動等の早期発見、早期対応に努めていく。さらに小・中・高のつながりのある生徒指導体制の確立を目指していきたい。

耐震化について

問 学校統合による耐震化が議論されるが、現在の学校耐震化をどのように考えているか。

答 今から耐震化に向けた詳細調査・手法の検討・実施設計・工事など進めても新設校の開校時期と余り変わらないと考える。ゆえに現在の学校施設の耐震化は考えていない。

問 学校教育検討委員会の答申の中に「耐震化は喫緊の課題」。既存の施設で児童生徒を日常的に活動させることは、保護者にとっても関係者にとっても精神的負担が重すぎる」とまで示されている。

現在耐震化の心配のない久佐々小学校の新校舎・歌垣小学校の一部校舎を除く本校舎を最大限活用してでも対応すべきと考えるが。

答 安心の為に久佐々新校舎に、久佐々・岐尼・天王の子が通つのは人数的に無理な状況である。



原田 健志

教育に関する課題について

極々小規模学級の解消について

問 数年後に新しい学校ができるから、その間は極々小規模の学級に通う子ども達は今まで通りで卒業する事になってよいと考えるか。今の子らに對しても極々小規模学級の解消に向けて本気で、今、先行してできる事を考えるはないか。

答 小規模の解消は明日からでもできるものなら、それにこした事はないと考えている。

しかし先行して通学校を編成しなおして地域への説明の中でまとめていくとなると実現は無理かとも思う。

実現が可能であれば教育委員会としても実施はしていきたいと思う。

問 まとめられるでしょうか。今、耐震化・極々小規模学級の解消といった問題ですべき事、出来る事は、対応していくという姿勢が必要では。

答 地域・保護者の考えにもよるが、就学指定地域の見直しも含めて対応できる場合もあると思う。子どものためにいい教育環境を考えたいとの熱い思いを教育委員会も持っている。

出生数の減少について

問 昨年の出生数をみると、将来的に学級替えは無理だと思うが、人間関係の固定化を防ぐ等に対策を考えているか。

答 昨年4月から本年2月までの出生は四十人であるが、出生数はその時々々の結果であるので、学校運営はその時々々の児童生徒の状況により教育環境を整えるべきと考える。

問 その時々々に考える事子には申し訳ないが数年後には解決するからと云う事にならぬよう今から充分考察をしておいていただきたい。

答 現場も当然考えている。